

# 東燃ゼネラル石油株式会社

## 2012年12月期第3四半期決算概要

2012年11月14日

### 取引の記載・見通しに関する注意事項

この資料に記載されている当社および当社グループ各社の事業に関わる計画、見通しについては、本資料作成時における当社の見通しに基づき記載しておりますが、日本および世界経済の動向、原油および製品価格、円ドルの為替レート、需給の変動に大きく左右される業界の競争状況などにより影響を受けます。これらの影響により、実際の業績は本資料で記載した見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。



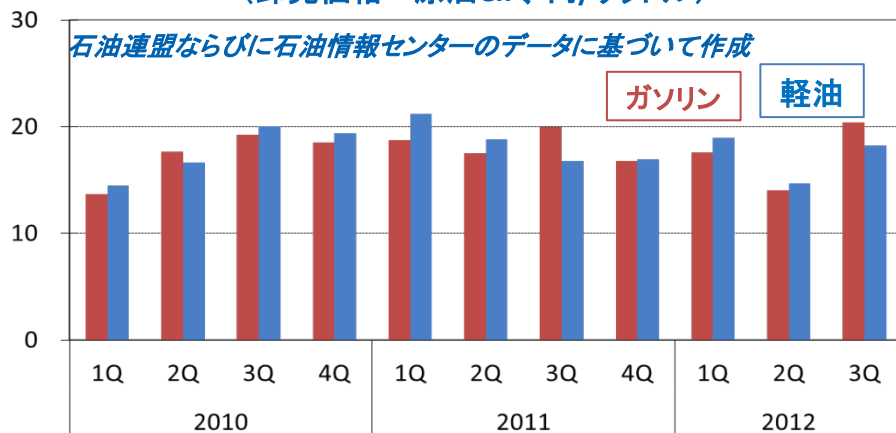
東燃ゼネラル石油株式会社

# 2012年7-9月期おもなポイント

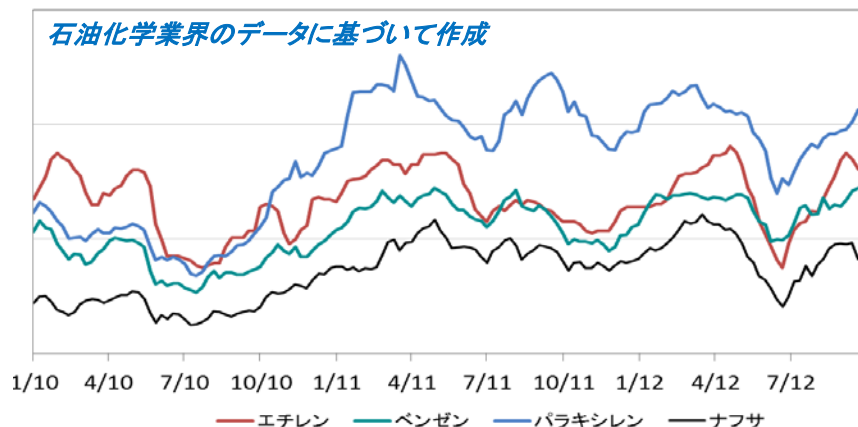
- 製販一体運営は順調に経過
  - 取得したEMGマーケティング合同会社(EMGM)の営業利益は、過去の平均実績を上回る
  - シナジー効果は想定通り、一時的移行コストは計画より低く推移
- 石油製品マージンは、低迷した4-6月期から大きく改善
  - 中間留分の輸出価格は国内価格を上回る
- 当社取締役会は、会社法の規定に基づき EMGMが保有する当社株式を同社から取得することを決議
- 2012年の通期利益予想は、好調な7-9月期実績と税効果の影響を織り込み上方修正
- 7月に川崎工場で定期修理後の再稼働が3週間遅延、9月には堺工場で落雷による緊急停止が発生
- 2011年6月の堺工場における溶融硫黄漏えい事故、および本件に係る通報義務違反につき、改めてお詫び申し上げます
  - 第三者委員会より提言された再発防止策を順次導入中

# 2012年7-9月期の事業環境

## 国内石油製品マージンの推移 (卸売価格 - 原油CIF、円/リットル)



## 石油化学品 価格推移



## 石油事業

- 7-9月期のマージンは4-6月期に比べ大幅に改善
  - 製品価格上昇幅が到着ベースの原油コスト上昇幅を上回る(4-6月期とは逆の現象)
  - 好調な製品輸出マージン
- 1-9月の国内石油製品需要は前年同期比8%の増加
  - ガソリン +0.8%、中間留分 +1.7%
  - C重油 +56%、強い電力向け需要が継続

## 石油化学事業

- 基礎石油化学品マージンは7-9月期も低迷
  - 原材料費上昇を吸収すべく製品価格も上昇傾向
  - 需要の低迷、需要家の在庫調整がマージン回復を抑制

# 2012年1-9月期決算概要

- 営業利益は前年同期比2,050億円減の69億円
  - 前期の在庫評価方法変更の影響がなくなったことにより、在庫評価益は1,941億円減少
  - EMGM取得に伴うのれんの償却費42億円を計上
  - 石油製品マージンは低かったものの好調なEMGMの業績で相殺
  - 石油化学事業は、7-9月期は小幅ながら黒字も、1-9月期では損失
- 一時的移行コスト(1-9月期 20億円)は当初計画を下回り、シナジー効果(1-9月期 10億円)はほぼ想定通り

億円	'11 1-9月期	'12 1-9月期	増減
売上高	19,807	<b>20,417</b>	610
<b>営業利益</b>	<b>2,120</b>	<b>69</b>	<b>-2,050</b>
経常利益	2,144	<b>61</b>	-2,083
特別損益	-2	<b>163</b>	166
<b>当期純利益</b>	<b>1,274</b>	<b>84</b>	<b>-1,191</b>

## 営業利益の内訳

在庫評価損益	1,890	<b>-51</b>	-1,941
のれん償却	-	<b>-42</b>	-42
<b>調整後営業利益</b>	<b>230</b>	<b>163</b>	<b>-67</b>
石油事業	177	168	-8
石油化学事業	53	-6	-59

石油事業	
3Q11YTD	177
•マージン	-102
•数量	-2
•経費	10
•EMGM	85
3Q12YTD	168

石油化学事業	
3Q11YTD	53
•マージン/数量	-70
•経費	11
3Q12YTD	-6

# 2012年7-9月期営業利益増減の要因分析

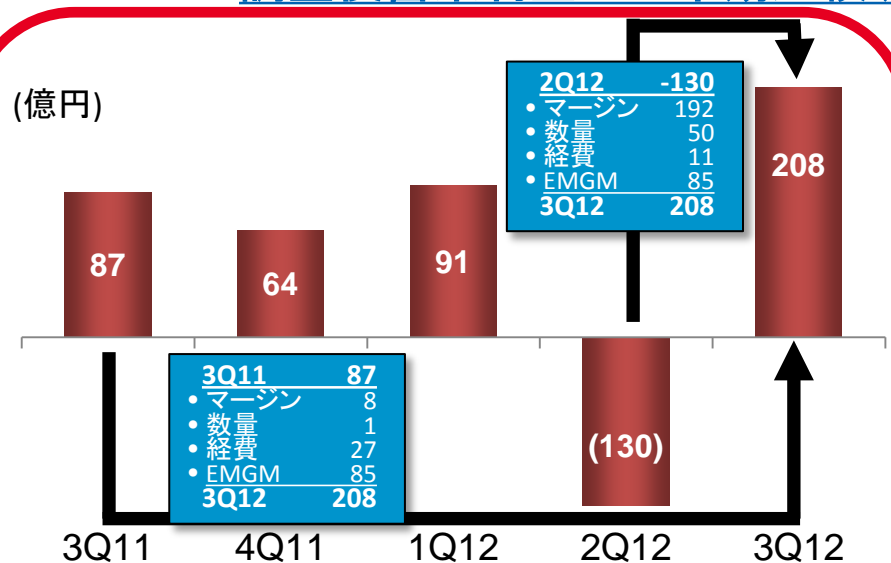
## 石油事業

- 国内、輸出ともにマージンは、低迷した4-6月期から大きく改善
- 過去の平均を上回るEMGMの業績が営業利益増に貢献
- 川崎工場の再稼働の遅れ、堺工場での落雷の影響により7-9月の販売数量は一時的に減少

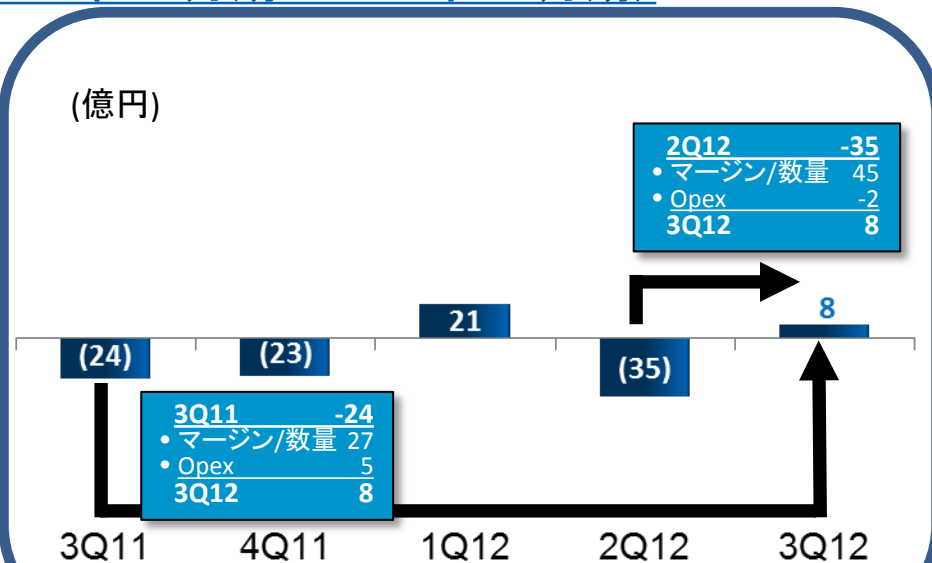
## 石油化学事業

- 7-9月期も特殊化学品の利益は安定。芳香族類・オレフィン類は4-6月期からは改善したものの依然として低調

### 調整後営業利益の四半期比較(2011年7-9月期～2012年7-9月期)



## 石油事業



## 石油化学事業

# 販売数量

- 販売数量は前年同期とほぼ同水準
  - 定期修理・緊急停止などの特殊要因による販売数量への影響は当期と前年同期でほぼ同程度
- 良好なマージン環境のもと、2012年7-9月期は輸出の最大化を追求
- 石油化学製品は、堺・和歌山両工場の定期修理の影響で減少した前年同期から回復

	'11 1-9月*	'12 1-9月*	増減	増減 国内全体	'12 7-9月EMGM 取得の影響**	'12 1-9月
<b>石油製品(千KL)</b>						
ガソリン	7,318	<b>7,145</b>	-2.4%	+0.8%	348	<b>7,493</b>
灯油	1,692	<b>1,892</b>	+11.8%	+2.2%	33	<b>1,925</b>
軽油	2,070	<b>1,974</b>	-4.6%	+2.5%	123	<b>2,097</b>
A重油	1,296	<b>1,145</b>	-11.6%	-1.2%	48	<b>1,193</b>
C重油	1,239	<b>1,336</b>	+7.8%	+55.6%	94	<b>1,430</b>
LPG・ジェット燃料・他	2,136	<b>1,993</b>	-6.7%		98	<b>2,091</b>
<b>国内販売合計</b>	<b>15,750</b>	<b>15,484</b>	<b>-1.7%</b>		<b>744</b>	<b>16,228</b>
<b>輸出</b>	<b>3,038</b>	<b>3,226</b>	<b>+6.2%</b>		<b>251</b>	<b>3,477</b>
<b>石油製品</b>	<b>18,789</b>	<b>18,710</b>	<b>-0.4%</b>		<b>995</b>	<b>19,705</b>
<b>石油化学製品(千トン)</b>						
オレフィン類その他	1,153	<b>1,180</b>	+2.4%		-	<b>1,180</b>
芳香族類	432	<b>484</b>	+12.1%		-	<b>484</b>
特殊化学品	134	<b>151</b>	+13.1%		15	<b>166</b>
<b>石油化学製品</b>	<b>1,718</b>	<b>1,815</b>	<b>+5.7%</b>		<b>15</b>	<b>1,830</b>
設備稼働率 (常圧蒸留装置ベース)	67%	<b>67%</b>	-			

\* EMGM取得前の当社ベース

\*\* EMGM 取得により増加した7-9月期の数量

# 2012年通期業績予想

- 通期営業利益予想は8月発表時点から60億円上方修正
  - 石油事業は80億円増: 10-12月期は弱含むも、良好な7-9月期を反映
  - 石油化学事業は20億円減: 低調な7-9月期を反映し、通期で若干のプラスに修正
  - 在庫評価損益は変更なし: 10-12月期にプラス50億円を見込み通期でゼロ
- 純利益は420億円増: EMGMからの自己株式取得に伴う税効果の影響などを織り込む

(億円)	'12 1-9月 実績	2012年通期予想		増減
		8月予想	11月予想	
売上高	20,417	28,000	<b>28,000*</b>	0
営業利益	69	120	<b>180</b>	60
経常利益	61	110	<b>170</b>	60
特別損益	163	170	<b>160</b>	-10
純利益	84	100	<b>520</b>	420

## (営業利益の内訳)

在庫評価損益	-51	0	<b>0*</b>	0
のれん償却	-42	-80	<b>-80</b>	0
調整後営業利益	163	200	<b>260</b>	60
石油事業	168	170	<b>250</b>	80
石油化学事業	-6	30	<b>10</b>	-20

\* 9月のドバイ原油価格 (111ドル/バレル) および為替レート(78円/\$)が年末まで継続するとの前提

- 一株当たり年間38円の配当予想は変更なし

# キャッシュ・フロー、D/Eレシオ

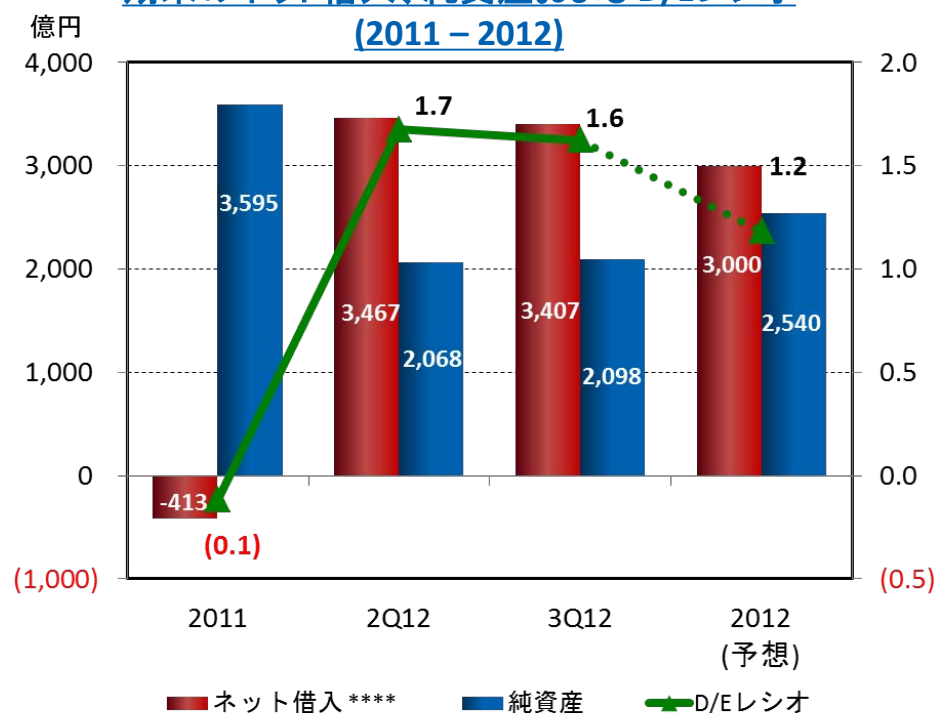
- 2012年末のD/Eレシオ: 上方修正した業績予想に伴う自己資本の増加、および運転資本の季節的変動により改善の見込み
- 7-9月期に1,000億円の社債発行登録を実施
- 配当対象株式数減少により、中間配当金支払額は40億円減。引き続き安定配当を優先

## '12 1-9月期 キャッシュ・フロー

	'12 1-9月期
<b>フリー・キャッシュ・フロー*</b>	<b>-3,692</b>
税引前利益**	61
減価償却費 / (固定資産の取得)***	98
法人税等の支払額	-384
BSF合弁事業解消によるキャッシュ・フロー	231
EMGM持分取得	-3,808
その他	110
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>4,189</b>
ネット借入金の増加など	4,362
配当金の支払	-173
<b>キャッシュ 増(減)</b>	<b>498</b>

- \* 営業および投資活動によるキャッシュ・フローの合計
- \*\* BSF合弁事業解消による特別利益を除く
- \*\*\* のれんの償却を含む
- \*\*\*\* 現金および現金等価物を除く

## 期末のネット借入、純資産およびD/Eレシオ (2011 - 2012)





---

# 補足資料

# 販売数量（過去のEMGM分を含んだ場合）

□ 2012年6月以前もEMGM（旧エクソンモービル（有））を連結したと仮定した場合の販売数量

	'11 1-9月	'12 1-9月	増減	増減
石油製品（千KL）				国内全体
ガソリン	8,159	<b>8,156</b>	-0.0%	+0.8%
灯油	1,908	<b>2,130</b>	+11.6%	+2.2%
軽油	2,458	<b>2,351</b>	-4.3%	+2.5%
A重油	1,436	<b>1,320</b>	-8.1%	-1.2%
C重油	1,423	<b>1,607</b>	+13.0%	+55.6%
LPG・ジェット燃料・他	2,351	<b>2,301</b>	-2.3%	
国内販売合計	17,738	<b>17,866</b>	+0.7%	
輸出	3,666	<b>3,773</b>	+2.9%	
石油製品	21,404	<b>21,679</b>	+1.1%	
石油化学製品（千トン）				
オレフィン類その他	1,153	<b>1,180</b>	+2.4%	
芳香族類	432	<b>484</b>	+12.1%	
特殊化学品	179	<b>195</b>	+8.7%	
石油化学製品	1,764	<b>1,859</b>	+5.4%	
設備稼働率 （常圧蒸留装置ベース）	67%	<b>67%</b>	-	

# 2012年連結業績予想の前提と感応度

## □ 今回の業績予想の前提

主な項目	単位	前提	注記
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	111	2012年9月平均
為替レート	円/米ドル	78	2012年9月平均

上記前提は、売上高および在庫評価損益の計算に使用

## □ 前提の変化に伴う利益への影響額(年間換算)

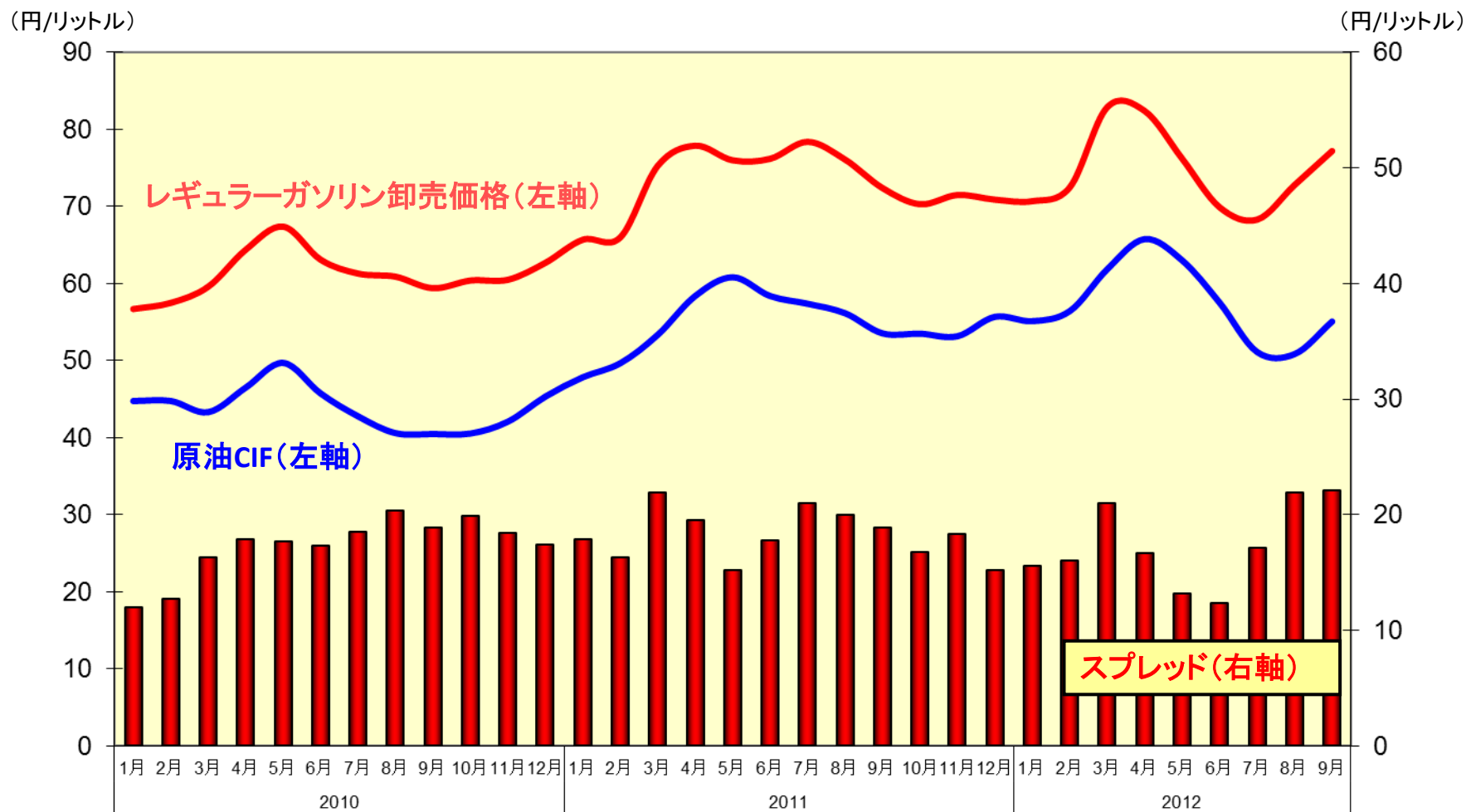
主な項目	単位	上昇幅	年間換算影響額(億円) 営業利益 / 経常利益*1
ドバイ原油価格(FOB)	米ドル/バレル	10	180 / 200*2
為替レート	円/米ドル	10	- 260 / -280*2
石油精製マージン	円/リットル	1	330*3

\*1 営業外損益に含まれる極東石油工業の持分法損益(50%持分税引後)を含む

\*2 在庫評価損益の影響のみ。原油価格変動のタイミングや在庫数量によっては異なる結果となりうる

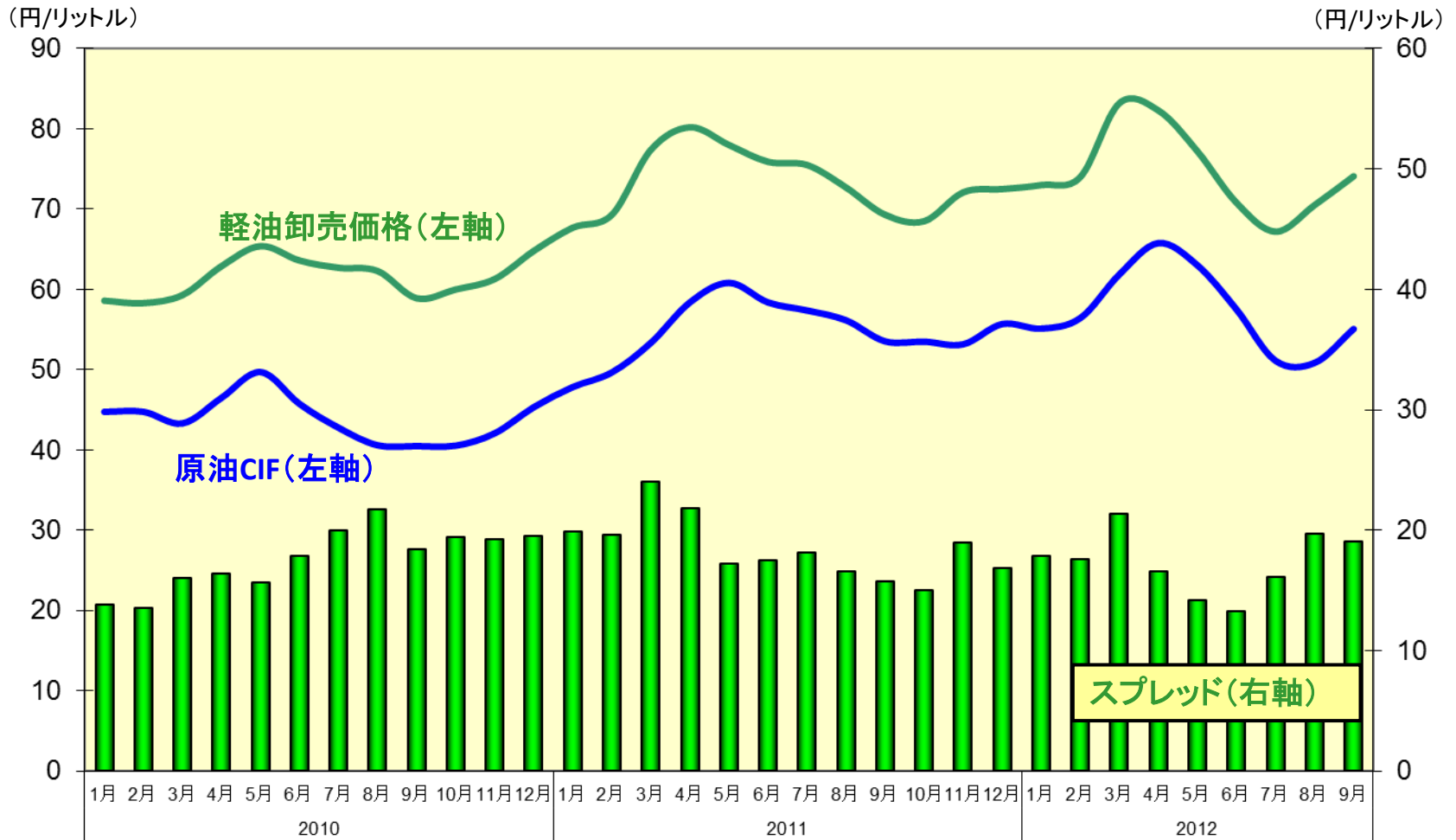
\*3 営業利益への年間影響額は10億円単位の概算であり、販売数量の増減によっては異なる結果となりうる

# 価格スプレッド（ガソリン卸売価格－原油CIF）



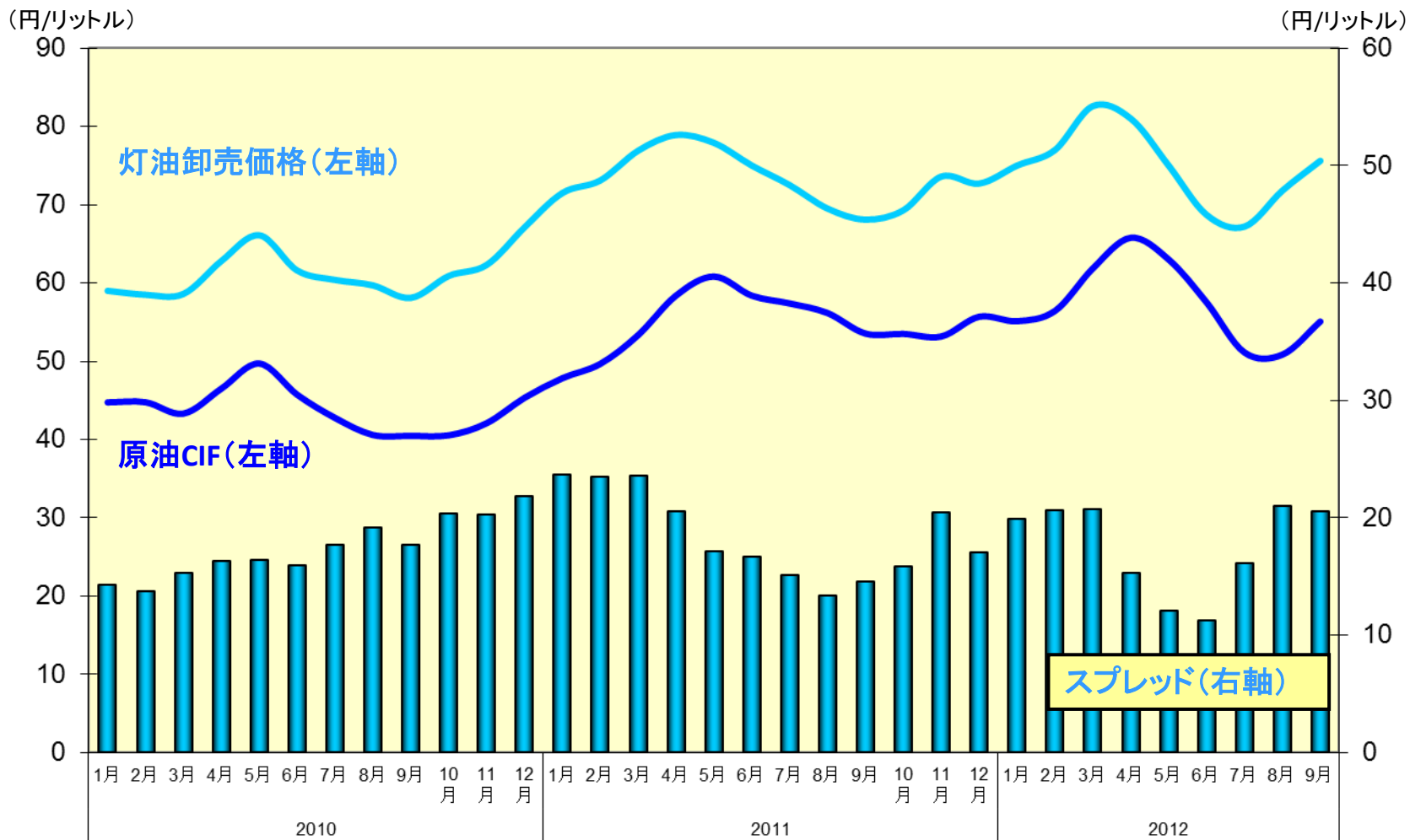
注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド（軽油卸売価格－原油CIF）



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 価格スプレッド (灯油卸売価格－原油CIF)



注: 石油連盟ならびに石油情報センターのデータに基づいて作成

# 営業利益内訳 (2010 – 2012年第3四半期)

## 2012年

(単位: 億円)

営業利益内訳	'12 1-3月期	'12 4-6月期	'12 7-9月期	'12 10-12月期	'12 通期	'12 1-6月期	'12 1-9月期
石油部門 (実質)	91	-130	208			-40	168
石油化学部門 (実質)	21	-35	8			-14	-6
在庫関連損益	192	-283	40			-91	-51
のれん償却			-42				-42
総合計	304	-448	213			-144	69

## 2011年

営業利益内訳	'11 1-3月期	'11 4-6月期	'11 7-9月期	'11 10-12月期	'11 通期	'11 1-6月期	'11 1-9月期
石油部門 (実質)	107	-18	87	64	241	89	177
石油化学部門 (実質)	72	5	-24	-23	30	77	53
在庫関連損益	1,732	280	-122	1	1,891	2,012	1,890
総合計	1,911	267	-59	42	2,162	2,178	2,120

## 2010年

営業利益内訳	'10 1-3月期	'10 4-6月期	'10 7-9月期	'10 10-12月期	'10 通期	'10 1-6月期	'10 1-9月期
石油部門 (実質)	-48	23	241	181	397	-25	217
石油化学部門	64	13	-55	-3	20	78	23
在庫関連損益	187	-94	40	-135	-2	93	133
原油コスト認識時点の差による影響	-20	10	50	-120	-80	-10	40
総合計	184	-47	276	-77	335	136	412